

進捗状況の概要【1ページ】

広島大学は、地球と人類社会が抱える予測不能な課題の解決に貢献できる人材を育成するため、ガバナンスを強化して、①大学改革、②教育制度改革、及び③国際通用性の高い教育や研究に取り組むことにより、世界中から志の高い学生や研究者を惹きつけるグローバルキャンパスの実現を目指している。

【大学改革】

本学が目指すグローバルキャンパス実現のため、学長の戦略的リーダーシップを発揮することのできる組織・制度の改革に取り組んだ。

○**戦略的教員配置**:平成 28 年度から、教員人事を全学一元管理とした。新たに「学術院」を設置して全ての教員を所属させ、教育・研究組織と分離した。また、本学が独自に開発した目標達成型重要業績指標 (AKPI®: Achievement-motivated Key Performance Indicator)等を活用し、教育・研究組織の枠を超えた全学的視点からの戦略的かつ計画的な人員配置が行えるようになった。本改革が功を奏し、外国人教員等の割合、女性教員比率、年俸制の導入、テニュアトラック制の導入のいずれにおいても、平成 28 年度の達成目標を上回った。

○**教員個人評価システムの導入**:教員個人のパフォーマンス向上を図るため、教育、研究、社会貢献、大学運営等における活動を客観的な指標に基づいて可視化するシステムを、平成 26 年度から理・工・農・医系部局、平成 27 年度から人文・社会・教育系部局で導入した。

【教育制度改革】

国際通用性の高い教育を通じてグローバル人材の育成を行えるよう、教育制度・教務制度の改革に取り組んだ。

○**クォーター制の導入**:クォーター制を平成 27 年度に試行し、平成 28 年度から全学導入した。この導入により、新たな学部留学生受入制度である、「広島大学森戸高等教育学院 3+1 プログラム」を開始することができた。

○**ダブルディグリープログラム (DD)**:平成 27 年度に「中国首都師範大学・広島大学共同大学院プログラム」を開講するなど、全学的に DD を推進した。平成 28 年度末現在で、24 件の DD 協定を締結した。

○**職員の能力高度化**:外国籍職員、外国大学の学位取得者、外国語能力の高い職員等を積極的に採用することに努め、いずれも平成 28 年度の達成目標を上回った。さらに、毎年本学独自の海外派遣研修を実施し、職員の能力向上に努めている。

○**階層的 TA 制度**:外国人留学生を含む大学院生が経験に応じて教育活動に関する能力・資質を身に付けられる三階層の階層的 TA 制度を、平成 28 年度に導入した。

○**教育組織等の新設**:本構想の成果を活かして、グローバルキャンパスの構築をさらに推進するため、留学生と日本人学生が混在して学ぶ新しい教育組織として、総合科学部に国際共創学科を新設する準備を進めた(平成 30 年 4 月設置予定、現在申請中)。また、全ての学部生を対象として、国際的教養力を備え、平和を希求し、チャレンジするグローバル人材を育成する目的で、平成 29 年度から「Global Peace Leadership Program」を開始した。

【国際通用性】

世界に通用するグローバルキャンパスを実現するため、国際通用性の高い教育の実施に取り組んだ。

○**大学間協定・海外拠点の充実**:学長のイニシアティブにより、海外大学との大学間交流協定を積極的に締結し、平成 28 年度末現在の協定数は 236 件(平成 27 年度末から 37%増)となった。特に平成 28 年度には、全国の大学で初めてカンボジア王国教育青年スポーツ省、ミャンマー教育省との協定が締結できた。また、エジプト、ミャンマー、メキシコ、及びカンボジアに海外拠点を設置した。

○**教育の国際比較**:教育の質の向上につなげるため、学部学生を対象とした国際的な学生生活実態調査(SERU: Student Experience in the Research University)を平成 28 年度に実施した。

【進捗状況】

本構想を組み込んで作成した、本学独自の大学改革構想工程表で計画した 185 項目の目標のうち、既に 177 項目について目標を達成することができた。また、本構想における 18 の数値目標においても、16 項目をほぼ達成しており(いずれも平成 28 年度末現在)、残り 2 項目についても、早期の達成に取り組んでいる。

また、国内外の学長等経験者 4 名からなる外部評価委員会を設置し、本構想の内容と進捗状況について、「ガバナンスの強化」「キャンパスのグローバル化」「教育の国際通用性向上」等の観点から評価を受けた。その結果、数値目標を含む共通成果指標の達成状況について、5 点満点で 4.5 点の評価となった。さらに、海外大学の 4 名のアドバイザリーボードと、ガバナンスの強化やキャンパスのグローバル化の取組を中心として意見交換を行い、AKPI®の活用、日本人学生の留学の仕組みや効果評価の工夫、SERU 等について、高い評価を得た。

以上、広島大学における本構想は、全体として順調に進捗している。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

【大学改革に関する取組と成果】

○**教員人事の一元化**:教員の活動を大学の機能強化に効果的につなげるため、人員配置から候補者選考までの過程を、役員会の議を経て学長が決定するガバナンス体制を構築した。人件費のポイント管理と教員配置に関する検討は、学長の下に設置された「全学人事委員会」で実施する。同時に教育・研究組織から分離された教員組織として新たに設置した「学院」と、教員の教育・研究に関するパフォーマンスをモニターする本学独自の AKPI®指標等を活用することにより、**教育・研究組織の枠を超えた全学的視点に基づく戦略的・計画的な人員配置の策定が可能**となった。その結果、外国人等教員、女性教員、年俸制教員、さらには若手教員の積極的な採用につながった。このような取組は、本学が国立大学の中で初めてであり、外部評価委員やアドバイザリーボードからも高い評価を得た。

○**AKPI®等の開発と活用**:大学改革を推進するための指標として、AKPI®を開発した。この指標は、教員の活動を教育、研究、国際性の3側面から数値化したもので、大学全体、専門分野別、部局別、個人別等に継続的にモニタリングすることにより、本学の強い領域、教員個々の活動の特徴等の把握が可能となった。AKPI®は、大学運営における有用性と独自性が国際的にも認められ、その内容を紹介した論文が、カリフォルニア大学高等教育研究センターが発行する Research and Occasional Paper Series に受理され、研究ポータル“escholarship”で公開されている (<http://escholarship.org/uc/item/85p9b1hd#page-1>)。さらに、AKPI®と相補的に使用する教員エフォート指標 (BKPI®:Basic Effort Key Performance Indicator)を開発し、大学の教育力・研究力の強化、戦略策定に活用している。

【教育制度改革に関する取組と成果】

○**森戸高等教育学院**:海外の大学で2年目または3年目までの課程を修了した学生を特別聴講学生として受け入れ、受入教員の指導のもと、卒業論文指導や専門教育を行う新たな留学生受入れ制度「広島大学森戸高等教育学院3+1プログラム」を始動した。これは、平成28年度に本格導入したクォーター制を活用した制度である。本学で修得した単位は、派遣元の大学で卒業要件単位として認定され、学位が授与される。海外の学生のニーズに合致するとともに、卒業後の本学への大学院進学を促す効果をもたらしている。

○**階層的 TA 制度の構築**:大学院生が教育活動への理解を深め、学習支援方法を身につけ、自立した教育者として活動できる制度を全学的に導入した。活動内容や求められる資質・能力によりTAを三階層(①教育活動の支援、②担当教員とともに教育活動を担当、③教員の指導のもと授業を担当)に分けた階層的 TA 制度を構築し、平成28年度に日本語と英語で開始した。これにより、外国人留学生を含む大学院生に対して、経済支援とともに個人の経験に合わせた教育活動に関するトレーニングを提供できるようになった。

【国際通用性・質保証に関する取組と成果】

○**SERU による学部学生の生活実態調査・国際ピアレビュー**:平成28年度に、全学部学生を対象に、SERU コンソーシアムに加盟する世界のトップ研究大学が実施している SERU 学生調査を行った。これは、国公私立を通じて日本の大学では2番目の取組となる。今後、この調査で得られたデータを解析し、世界の大学と比較することで、本学の学生の学びの特徴を把握し、教育の改善につなげる。また、本学の到達目標型教育プログラムである HiPROSPECTS®について、SERU コンソーシアムを構成する主要大学のメンバーによるピアレビューを実施した(平成29年6月)。

○**日本語版 BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory) の開発と実施**:留学プログラム等の教育効果を客観的に測定し、質保証を行うため、臨床心理学に基づく web ベースのテスト(BEVI-j)を日本で初めて導入した。分析の結果から、留学による学生の明確な成長を客観的に実証することができた。

上記の他に、学生の国際的視野を広げ、動機づけを高める目的で、学生が日常的に英語に触れ、英会話の練習ができる場として、グローバルコモンズを設置した(平成28年度)。また、学生の語学力向上に対する動機づけの一環として、平成28年度から新入生に対し英語(TOEIC)の個人別到達期待値を設定し、個別に通知している。これは、各学生の入学時の英語力を基準にして、卒業・修了時までの半期毎に到達する目標としての TOEIC 得点を大学が設定したものである。本構想の意義が広く理解され、取組の改善や成果の共有が促進されるよう、高等教育研究叢書『スーパーグローバル大学創成支援事業による広島大学の教育力・研究力強化－客観的指標に基づく国際水準の達成－』を発刊し、本学の取組を学内外に分かりやすく紹介した。また、広島大学における本構想の取組が PHP 新書『広島大学は世界トップ100に入れるのか』等で取り上げられた。